基本術式解説

ここでは、初歩的な術式から病巣の対処法まで、すべての術式の処置法と注意点を解説している。3章の執刀記録に進むまえに、しっかりと頭に叩き込んでおきたい。

■ 基本術式ページの見方

1 名称
術式および病巣の名前

2 使用器具
その術式で使用する手術器具のアイコンを掲載

3 評価ポイント
術式および病巣の処置中に評価が表示されるかどうか
○……術式のどこかで評価が表示される
△……その患部の術式には評価が表示されないが、症状の悪化や摘出後などに別の患部が必ず発生し、その患部の術式を行なうと評価が表示される
—……評価は存在しない

4 解説文
術式および病巣の特徴、執刀時の注意点などを詳細に解説している

5 処置手順
術式および病巣の処置手順。各手順において使用する器具とその使用法を掲載。特別な処置法がある場合やスティグマが生み出す病巣を処置する行動は手順番号を「—」と表記

6 評価ポイントに関わる要素
術式および病巣の処置中に発生する評価で、高評価の「Cool」を獲得するために知っておくべき注意事項を掲載

■ 基本術式索引

バイタル回復

使用器具 評価ポイント

注射で回復剤を吸引して患部に投与する基本術式。注射をどこに差しても「Miss」にはならず、回復剤を吸引した量によって回復する値は変わる。減少したバイタルを一気に回復するには回復剤を数回投与する必要があるため、バイタル低下を招く術式のまえにあらかじめ行なっておきたい。なお、ヒールゼリーを塗り続けてもバイタルを多少回復することが可能。回復剤を吸引する時間すらない緊急事態の場合や注射器が一定時間使用不可になったときなどは、ヒールゼリーを合わせて活用するといい。

次の手順に進むまえに回復剤でバイタルを安定させる。低くなってからでは対処しにくい。

バイタルが0になっても、すぐに回復できれば手術失敗にはならない。あきらめずに回復しよう。

［手順］

❶	注射	患部に回復剤を投与する
—	ヒールゼリー	患部に塗る

切り傷

使用器具 評価ポイント

ガラス片や骨片など、異物を抜いた痕にできる切り傷の処置。切り傷はヒールゼリーを塗るだけで治療できる。術野に複数の切り傷がある場合は、まとめて処置するといい。

ヒールゼリーのエフェクトが触れて「OK」と表示されれば処置完了。念入りに塗る必要はない。

［手順］

❶	ヒールゼリー	患部に塗る

裂　傷

使用器具 評価ポイント

ヒールゼリーで治癒できない裂傷を針と糸を使って縫合する術式。縫合は傷口に対してジグザグに行なうのだが、「糸の長さが規定の長さ以上あるか」「折り返しの左右幅が短くないか」、「折り返しの回数が少なすぎないか」などから評価が決まる。すべてを正しく行なえば「Cool」を獲得できるが、ミスがあるごとに評価は下がる。また、傷を中途半端に縫った場合は、ミスにならないがやり直しになる。

裂傷のなかには、出現時に傷口から血溜まり（24ページ参照）が発生しているものがあり、その場合は裂傷を縫合するまえに傷口の血溜まりを吸引しておく必要がある。また、このタイプの裂傷は血溜まりを一度吸引していても、一定の時間後に血溜まりが再発する。処置は一気に行なおう。

裂傷の縫合は、大きく数回折り返すのが基本。ただし、短い裂傷は細かく縫合する必要がある。

重なった裂傷を縫合した場合、新しい傷が選ばれやすい。その点に注意して縫合しよう。

［手順］

❶	針と糸	傷を縫う
—	ドレーン	血溜まりを吸引　血溜まり発生時のみ）

評価ポイントに関わる要素

- 縫合線の長さが規定以上あり、左右幅が正確
- 縫合の折り返しの回数が規定以上ある